

執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

■皆村 武一 (みなむら たけいち)

- ① 1945年・鹿児島県
- ② 法文学部経済情報学科国際協力講座教授
- ③ イタリアおよび日本経済の比較研究, 伝統社会の研究, 奄美経済の研究
- ④ 著書
『奄美近代経済社会論』(晃洋書房, 1988年)
『戦後日本の形成と発展』(日本経済評論社, 1995年)
『戦後奄美経済社会論』(日本経済評論社, 2003年)

■北村 良介 (きたむら りょうすけ)

- ① 1947年・京都府
- ② 工学部海洋土木工学科環境システム工学講座教授
- ③ 地盤工学, 不飽和土質力学, 防災工学, 火山工学
- ④ 1) 小島尚人, 北村良介, 大林成行, 伊代田尚志: 衛星リモートセンシングデータを導入したシラス自然斜面の崩壊危険箇所評価精度の向上, 土木学会論文報告集, No.707/V I -55, pp. 165-176, 2002. 6.
2) 北村良介: 降雨に伴う土砂災害に対する防災技術の現状と将来展望, 土と基礎, 51-1, pp. 22-25, 2004. 1.
3) 北村良介: 論説: 火山工学の必要性と課題, 土木学会誌, Vol. 89, No. 7, pp. 8-9, 2004. 7.

■深見 健一 (ふかみ けんいち)

- ① 1981年・京都府
- ② 理工学研究科海洋土木工学専攻院生

■山本 一哉 (やまもと かずや)

- ① 1966年・鹿児島市
- ② 法文学部経済情報学科国際協力講座助教授
- ③ 国際経済論, アジア経済論
- ④ 「韓国における銀行再編」鹿児島県地方自治研究所
『自治研かごしま』(No.78, 2003. 8)
「沖縄・奄美群島の物流と自立化」『島嶼地帯の県境
を越えた市町村合併に関する総合調査－奄美群島を
事例にして (平成15年度文部科学省科学研究補助金
／基礎研究(B) (2)／研究代表者：山田誠)』(2004年
3月)

■川上 忠志 (かわかみ ただし)

- ① 1943年・沖永良部島和泊町
- ② 南日本新聞和泊販売所所長 (南日本新聞支社局協力
員・現地記者)
- ③ 沖永良部島調査研究 (島の戦後史, 高倉, 農業, 自
然環境等の調査研究)
- ④ 沖縄タイムス「唐獅子」コラム執筆 (2003年1～6
月)
- ⑤ 鹿児島県推進「奄美群島自然共生プラン」現地調査員,
和泊町民教室郷土史講師

○編集後記

■ 2004年11月27日（土）沖永良部島和泊町にて開催された公開シンポジウムについて、3号にわたって紹介していく予定です。当日会場にお越しいただけなかった方々にも、会場の雰囲気을少しでもお伝えできればと考えております。

今回の表紙写真は、向かって左側；皆村武一先生（法文学部）による基調講演，中央；シンポジウム前日の会場準備の様子，右側；当日の会場の様子です。

受付では報告者の先生方のレジュメや、ニュースレターのバックナンバー等を来場者の皆様にお配りしました。ところが予想以上の盛況で、途中から、用意しておいた資料類がなくなるという事態が発生してしまいました。皆様にはたいへんご迷惑をおかけいたしました。紙面を借りてお詫び申し上げます。

■ 鹿児島大学初の文科系博士課程として、2003年4月に設立された地域政策科学専攻（博士後期課程）も、来月には設立3年目を迎えます。来年度は、いよいよ博士号取得者が出てくることとなります。1期生をはじめ、院生たちは必死で研究に取り組んでおります。プロジェクト研究も第2回目の報告会を無事終え、研究は確実に進行しております。来年度は、3学年が一体となって、さらに専攻を盛り上げていってほしいと思います。

なお、プロジェクト研究報告会へは、学外から50名を越える多数のご参加をいただきました。心より御礼申し上げます。（I）

研究責任者 山田 誠

奄美ニュースレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

発行日 2005年3月4日